

VI. 研究

1. 研究活動

(1) 研究業績

1) 研究業績基準

<著書>

(1 1 学術書) 博士論文、単・共・編著を問わないが直接執筆に参加した専門書。編者のみの場合は(1 2 その他)とする。

(1 2 その他) 学術書以外の専門分野の著書(教科書、入門書、啓蒙書等)。

<学術論文(原著論文)>

(2 1 学会誌) 学会誌及び専門誌等で査読を受けた論文。

(2 2 紀要) 査読を受けた紀要論文。査読を受けない論文は(2 3 その他)とする。

(2 3 その他) 上記以外の学術論文。

<学術論文(総説)>

(2 4 総説) 学会誌や専門誌などに掲載された総説、解説、展望等。

<翻訳>

(3 1 学術書) 専門書及び専門分野における教科書、入門書等。

(3 2 その他) 専門分野以外の翻訳書。

<作品及び演奏発表等>

(4 1 作品及び演奏発表等)

情報処理による絵、音楽等の作品で公的に発表されたもの。

体育・スポーツの分野における作品で公的に発表されたもの。

(例：ダンス、体操などの発表)

<学会記録>

(5 1 一般発表) 学会及び各種学術研究会での発表で記録に残るもの。

(5 2 特別講演)

(5 3 シンポジウム、パネル)

(5 9 その他)

<口頭発表 記録に残らないもの>

(6 1 一般発表) 学会及び各種学術研究会での発表で、その内容は記録に残らないが発表年月日・機関・題目が残るもの。

(6 2 一般発表)

(6 3 シンポジウム、パネル)

(6 9 その他)

<その他の文筆活動>

(7 1 その他の文筆活動)

公的に発刊された出版物に掲載された著作で、専門・専門外を問わないが業績としてふさわしい水準のもの。

<その他>

(8 1 症例研究(医))

(8 9 その他) 上記の全ての業績区分に含まれないが、業績としてふさわしい水準のもの

(注) 本基準の運用については各学科に任せるものとする。

2) 研究業績一覧

学科	著書		学術論文		翻訳		作品演奏		学会記録		口頭発表		その他の 文筆活動		その他		計
	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	
情報処理学科	—	1	2	4	—	—	—	1	1	3	—	1	1	—	—	—	14
国際文化学科	—	—	6	2	—	—	—	—	5	—	2	—	—	2	2	—	19
計	1		14		—		1		9		3		3		2		33

<研究業績表の見方>

著者・発表者	著書・論文・演題名等		
発行所・掲載誌・学会等	巻・号	ページ	発表形態
概要			

<研究業績内容>

《情報処理学科》

廣瀬貴規、深江太郎、藤本邦昭、矢原充敏、佐々木博文、石岩	ブートストラップ回路による電圧制御発振回路		
第2回ユニーク自作チップコンテスト in ひびきの			著者 (学術書)
「第2回ユニーク自作チップコンテスト in ひびきの」においてブートストラップ回路による電圧制御発振回路の IC チップ試作を行い、優秀賞を獲得することができた。			
磯口博、佐々木博敏、宮崎隆彰、藤本邦昭、矢原充敏、佐々木博文	演算増幅器と CMOS 論理ゲートによる微分形動作無安定マルチバイブレータに関する一考察		
電子情報通信学会論文誌	Vol. J93-C No. 8	pp. 271-275	学術論文 (和文学会誌)
演算増幅器と CMOS 論理ゲートバッファ/コンバータを結合した微分形動作無安定マルチバイブレータは、両電源仕様及び単電源仕様いずれの演算増幅器を用いた場合にも、その微分入力電圧波形が不感領域に突入することもなく、最大定格を凌駕することも無い構成とすることができる。また、この構成は発振周波数が演算増幅器の出力飽和電圧に影響されることがなく非常に簡単な数式で表されるとともに、Duty Factor 50%の正確な出力パルスを得ることができる。			
佐々木博敏、廣瀬貴規、藤本邦明、佐々木博文、矢原充敏	A Multi-Phase Clock Type Voltage Controlled Oscillator Using As Base Clock in Digital PLL		
ICIC Express Letter	Vol. 4, No. 6(A)	pp. 2213-2218	学術論文 (欧文学会誌)
分周比可変型デジタル PLL に用いるための、多相クロック電圧制御発振器の構成とその特性解析を行っている。			
佐々木博敏、藤本邦昭、佐々木博文、矢原充敏	A Dividing Ratio Changeable Digital PLL Using Multi-Phase Clock VCO unaffected by Input Frequency Ch		
ICIC Express Letters	Vol. 2 No. 1	pp. 125-130	学術論文 (欧文学会誌)
多相クロック VCO を用いた分周比可変型デジタル PLL は、入力信号の周波数変化に対する出力ジッタの影響を受けないことについて報告している。			
井上真宏、佐伯修一郎、八尋剛規、重枝一郎	情報モラル指導の効果的な在り方 —情報モラルカリキュラムの作成と指導法の工夫を通じて—		
福岡市教育センター研究紀要	第 839 号	pp. 情 1-情 20	学術論文 (紀要)
新学習指導要領総則編において、各教科等の指導に当たっては、情報モラルを身に付けさせることが明記され、「新しいふくおかの教育計画」でも、メディアリテラシーの段階的育成が述べられた。そこで本研究では、情報モラルを効果的に指導するために、情報モラルカリキュラム (試案) と年間指導計画 (例) を作成した。本実践は、道徳の時間の学習において電子黒板を活用した情報モラル指導を試みた。その結果、情報モラル指導の効果的な在り方を明らかにすることができた。			
宮川幹平	Branching trees chlique における部分重み付け関数の最節約拡張		
東海大学短期大学紀要	第 44 号	pp. 69-74	学術論文 (紀要)
ある単純な連結グラフにおいて、その一部の頂点に実数値が割り当てられているとき、残りの頂点にどのような値を割り当てるべきかという問題を考える。ここでは、各辺における両端点への割当値の絶対値差 (辺の長さと呼ぶ) に着目し、その総和 (グラフの長さと呼ぶ) をどれだけ小さくできるかということ、残りの頂点への割当の評価基準として用いた。この問題は、グラフとその各頂点に対する部分重み付け関数 σ が与えられたとき、その定義域をグラフの頂点集合全体に拡張した関数 (σ の拡張と呼ぶ) の中で、グラフの長さを最小化するもの (MPE) を求める最適化問題と考えることが出来る (MPE 問題と呼ぶ)。本論文では、これまでの研究において明らかになっている、木やサイクルを唯一含むグラフに対する特徴付けを踏まえ、クリークに複数の木が接続されているグラフ (Branching trees chlique) を対象として、そのグラフにおける MPE 問題を取り上げた。結果として、ある条件を満たす場合において、その MPE を特徴付けすることができた。			
八尋剛規	トラッキングシステムにおけるリバースジオコーディングの最適化		
東海大学短期大学紀要	第 44 号	pp. 39-46	学術論文 (紀要)
データベースやトラッキングシステムの利用したリバースジオコーディング最適化の提案と検証			
深江太郎、廣瀬貴規、藤本邦昭、矢原充敏、佐々木博文、石岩	ニューロン CMOS インバータを用いた AD 変換回路		
第2回ユニーク自作チップコンテスト in ひびきの			作品 (表彰あり)
「第2回ユニーク自作チップコンテスト in ひびきの」においてニューロン CMOS インバータを用いた AD 変換回路の IC チップ試作を行い、最優秀賞を獲得することができた。			

佐々木博敏、廣瀬貴規、藤本邦明、佐々木博文、矢原充敏	A Multi-Phase Clock Type Voltage Controlled Oscillator Using As Base Clock in Digital PLL		
ISII2010 (国際会議)	CD-ROM		学会記録 (一般発表)
デジタルPLLの基準クロックとして多相クロックの電圧制御発振器を用いることにより、入力周波数の変化に影響されことなく低出力ジッタを実現できる分周比可変型のPLLを提案している。			
末松泰子、小嶋栄子、河野睦美	短期大学の学生調査ーキャリア教育・職業教育の探究 その2ー		
大学教育学会第32回大会 発表要旨集録		pp. 32-33	学会記録 (一般発表)
全国48短大、7,859人の平成21年度入学生を対象としたアンケート調査から、短大生活と学習の実態、教育方法とキャリア・職業への移行支援の関連を中心に考察した。			
吉本圭一、安部恵美子、小嶋栄子、末松泰子、吉武利和、河野睦美	短期大学の学生調査ーキャリア教育・職業教育の探究ー		
日本高等教育学会第13回大会 発表要旨集録		pp. 216-219	学会記録 (一般発表)
全国48短大、7,859人の平成21年度入学生を対象としたアンケート調査から、高校生活、短大への期待、希望進路、等を分析した中間報告である。			
伊津信之介	elmmによる「日本語で理解する今の日本」日本語教材		
2010世界日本語教育研究大会		p. 1488	学会記録 (ポスター発表)
教育のピラミッドを逆転させ、時系列にとらわれずに、教育の布を織りなす『自立共生の道具』を世に問うのがELMMによる教材開発の目的である。今回は「食料自給」を題材に、elmmによる「日本語で理解する今の日本」日本語教材作成事例を発表した。			
宮川幹平、竹内裕二、矢原充敏、八尋剛規、塘将典	地域活性化教育におけるeポートフォリオの活用 第二報 ーeポートフォリオの設計と運用に関する事例報告ー		
教育工学会年次講演会全国大会			口頭発表 (一般発表)
東海大学福岡短期大学 (以下、本学) では、大学生活を通じて社会で生き抜くための基礎力 (社会人基礎力) を育成するため、学生の就労体験と地域の活性化を組み合わせた全学的な取組を立ち上げ、本学内の仮想会社を中核として、大学・地域・企業・行政が一体となった活動を進めてきた。今回、これらの成果を踏まえて、本取組における、地域活性化に向けた実践的活動を伴う教育の効果を客観的に測定するため、eポートフォリオを用いた学習活動の蓄積と評価と、その導入・運用に関する研究を行う。本報告では、第一報で示された、本取組での社会人基礎力育成に適したeポートフォリオのあり方と、その構築のための基本的な考え方をもとに、本取組において構築するeポートフォリオの設計要件について検討を行った結果と、それに基づく本学既存システムの活用事例を示す。			
八尋剛規	KetaiTracker 携帯電話でAPRS!!		
CQ Hamradio	2010. 6	pp. 96-99	その他の文筆活動
GPSとケータイを用いたトラッキングシステムの報告 (専門雑誌)			

《国際文化学科》

赤井ひさ子	インドにおける実践的初等教員養成の展開: インド・オスマナバード県のDIETを事例として		
アジア教育史研究 20号	20号	pp. 21-34	学術論文 (和文学会誌)
州自治を尊重するインドでは、初等教員養成においても、連邦政府の指針に基づいて各州が養成カリキュラムを編纂する。これに加えて、地方分権化が強調されており、各州下に設置された県教育研究所 (DIET) でも当該県の実状に応じた初等教員養成が実施が奨励されている。本稿ではマハーラーシュトラ州オスマナバード県のDIETについて、最新動向から初等教員養成を検討した。特に、「教育実習」については、県内の都市部と農村部の両方での実習を体験させるなど、地域に根差した初等教員養成が意図され、実施されている。			
大方優子	土産品購買行動に関する文献研究		
東北アジア観光研究	7 (1)	pp. 269-282	学術論文 (和文学会誌)
土産品観光行動に関する国内外の文献をレビューしながら、土産品購買の行動的特徴に関わる基礎的理論を整理した。			
赤井ひさ子	Pre-service Elementary Teacher Education in India: contemporary trends to augment teacher preparatio		
東海大学短期大学紀要	第44号	pp. 23-30	学術論文 (紀要)
初等教育普遍化達成を目前にしたインドでは、教育の質的改善を検討する段階になり、初等教員養成の再検討が提唱されている。また、広大な国土と多様な文化を包含するインドでは、地域ごとの検証が不可欠と認識されるに至っている。本稿では、インド西部の一州に注目し、さらに州下の県レベルで必要とされる初等教員養成についての検討し、今後の課題を明らかにした。			
神山高行	『タイタス・アンドロニカス』にみる暴力性と残酷性ー劇作家としての出発点ー		
東海大学短期大学紀要	第44号	pp. 61-68	学術論文 (紀要)
シェイクスピア劇の中で最も暴力性と残酷性に満ちた作品といわれる『タイタス・アンドロニカス』 (1594) は、悲劇であると同時に復讐劇、ローマ史劇としての側面を併せ持っている。本論では、悲劇・復讐劇・ローマ史劇という重層的な構造を持つ本作品において、シェイクスピアの劇作術と作品にみられる暴力性・残酷性がどのように関係しているのかを論じている。			
北濱幹士 他	第41回海外研修航海における研修学生の余暇意識の動向		
東海大学短期大学紀要	44	pp. 47-52	学術論文 (紀要)
本稿では、第41回海外研修航海における研修学生の余暇意識の動向について分析する事を目的とする。第41回海外研修航海は、全国の東海大学に在籍する学生から選抜され、97名の研修学生は12月の事前研修、そして50日に渡る研修航海を行った。研修航海での生活のほとんどが望星丸船内であり、船内、団体生活をも含め、陸上とは全く異なった生活環境に置かれる。上記した日常とは異なった生活の中での、研修学生の余暇意識、寄港地での異文化交流、そして、事後調査より、余暇意識の動向を探り、分析する。			
チョウアンナ	数字から見た日中文化の特色		
東海大学福岡短期大学紀要	第44号	pp. 53-60	学術論文 (紀要)
私たちが日常生活の中で何気なく使っている数字は、人類文明を根底から支えている。数字の中に私たちの生活があり、まさにその数字の上に近代的な科学技術が結実したのもあった。数字はその誕生から、生きた聖霊そのもので、神を語り世界を語る哲学の一種である。数字に対する崇拝と禁忌は、数字の文化的機能の重要な現われだと言えよう。			

本稿では、中国漢数字の原初的表象、伝説や神話との関係を考察し、古典にどのように用いられ、数字にはどのようなメッセージが込められているのか、また日中の伝統文化にどのような影響を与えたのかを探りたい。同時に、両国の数字に対する習俗や規則にどのような特色があるのか、その歴史文化の差違を考究した。数千年間、「一分為二、合二為一」理念が中国の文化伝統・社会習慣に根ざし浸透した。一方、「陰陽和合」「合二為一」は、日本文化の根底を支えているのではないかと思う。日中両国文化の根本的な違いは、この「一」と「二」ではないかと結論したい。			
神山高行、真下仁	報告：東海大学福岡短期大学「2010年度リーダーズ研修会」－初年次教育に向けて－		
短期大学コンソーシアム九州 紀要	Vol. 1	pp. 45-50	学術論文（紀要）
本稿は、2011年2月、グローバルアリーナ（福岡県宗像市）において行われた東海大学福岡短期大学「2010年度リーダーズ研修会」について報告するものである。報告では、リーダーズ研修会の概要を紹介しながら、本研修が短大教育においてどのような位置付けにあるのか、またその教育的効果とはどのようなものか、について示唆している。同時に報告では、初年次教育に関する講演会の様子や研修に参加した学生及び短期大学コンソーシアム九州連携校の関係教職員に実施したアンケート調査への回答から、短大における初年次教育の現状と可能性についても示唆されている。			
チョウアンナ	学習意欲を喚起する授業法の探究		
東海大学紀要 教育研究所	第18号	pp. 77-91	学術論文（紀要）
稿者は中国語の授業において、学生の興味や好奇心を刺激し、なおかつ楽しい授業、学生を元気にする授業を通して、学習意欲の喚起をめざした。彼らにとっての世界一受けたい授業を目標に定めた。①笑顔の挨拶、ハキハキした返事と受け答え、パツと明るくなるような雰囲気作りを心がけた。②発想の豊かさ、奇抜さ、斬新さを促す工夫をした。③共同作業で優劣意識・個人差を無くし、担当係を選び、グループ学習の中心役を担わせることやグループごとに点数を付けることなどの方法を取った。④授業中の眠気予防と究極の疲れ解消法として、音楽、歌、踊りなどを取り入れ、学習意欲を高める効果をあげた。⑤漢字の魅力と面白さという利点を生かし、学生に知的興奮を感じさせ、楽しみながら中国語を学べる工夫をした。⑥留学生と一緒に勉強し合い、議論しあえるようにして、相互に理解し尊重しあう土壌を提供した。これらの取り組みにより、学生の学ぶ意欲を自らかき立て、生き生きとした表情、積極的に一生懸命学習に取り組む姿が見られ、自信や責任感、友愛の心も育てた。今の学生にとって「受けたい授業」を行うことが必要である、という思いを新たにしたい。「受けたい」という気持をさせることによって、「おもしろそうだな」「やりがいがありそうだな」と思い、「自信」「満足感」などが生まれ、自ら学ぶ意欲の向上につながっていく。明るい雰囲気作り、先生に対する信頼は、学生自ずから進んで学習しようとする気持を喚起した重要な第一歩ではないかと考える。それは、明るい雰囲気作り、魅力に感じる授業の工夫、最後の1人まで捨てない粘り強い指導、先生と学生・学生同士とのよき人間関係がもたらしたものだと思われる。			
赤井ひさ子	学会発表：初等教員養成事例研究の試み：インド・マハーラーシュトラ州オスマナバード県からの報告		
日本南アジア学会九州部会(2010年5月13日、於：九州産業大学)			学会記録（一般発表）
現在インドには、州下の各県に「県教育研究所」が設立され、地域の初等教育の担い手となる初等教員を養成している。今回は、インド連邦政府の初等教員に対する認識の変化を概観するとともに、前記の研究所で初等教員となるべく学修をしている学生について、マハーラーシュトラ州オスマナバード県を事例として、向上しつつある初等教員の資質をどのように検討していくかについて発表した。			
赤井ひさ子	初等教員養成再構築に向けて：インドの事例とその背景		
アジア教育史学会第19回大会(2010年7月31日、於：千葉県立保健医療大学幕張キャンパス)			学会記録（一般発表）
インド連邦政府は、2005年に、新たに「国のカリキュラムの枠組み」を発表した。これは、学校教育のみではなく、教員養成についての方向性を示したものと注目されている。これまでは教員の現職教育に重点が置かれていたとして、採用前の教員養成に力をいれ、次世代を担う市民に良質の初等教育を実施する能力を持つ初等教員養成を再構築しようとしている。本発表では、多様な文化的背景を持つインドの初等教員養成の変化について検討した。			
伊原奉賢	「e-Learning 韓国語」Web教材の開発と実践		
韓国日本近代学会第21回国際学術大会講演論文集		pp. 36-69	学会記録（一般発表）
いつでも、どこでも、自分のレベルに合わせた韓国語の学習ができる初級韓国語の「e-Learning 韓国語」Web教材開発の経過とその内容、授業方法、実践結果を報告する。			
北濱幹士	学校法人T大学 第41回海外研修航海における研修学生の余暇意識の動向		
九州レジャー・レクリエーション学会 のべおか大会			学会記録（一般発表）
第39回海外研修航海についての先行資料を基に、「限られた船内生活環境、そして共同生活から成される人間形成」に注目し、研修航海に参加する事で学生にどのような余暇意識の動向が見られるかに焦点を置き、第41回海外研修航海に参加した研修学生の余暇意識の動向についての発表。			
チョウアンナ	世界一受けたい授業を目指す		
東海大学授業研究会	第15回	pp. 17-18	学会記録（一般発表）
一 問題提起 欠席・遅刻、授業中の私語、化粧、携帯、無断退室等、学生の学習に対する意欲の低さが深刻な問題となっている。そうした学生の学習への取り組み姿勢を改善したい。 二 学校の取り組み 今年度から短大指導部は、授業中の行為・受講姿勢に対する基本ルールを明確に定め、全ての授業で実施した。授業改善に対する意識や取り組みは向上し、遅刻・欠席などの行為が減った。 三 個人の取り組み 1 笑顔と気持のよい挨拶、明るい雰囲気 2 自己表現、発想の豊かさ、奇抜さ、斬新さを促す 3 協力を促す学習意欲を高める 4 授業中の眠気予防と究極の疲れ解消法 5 漢字の魅力と面白さを生かし、学生の知的興奮を刺激する 6 文化的背景を知り、理解しあう土壌を提供する			
大方優子	観光における買物行動の特徴と販売施設に関する考察－道の駅を事例に		
韓国日本近代学会第21回国際学術大会講演論文集		pp. 320-323	口頭発表（一般発表）
道路施設「道の駅」について、観光行動論の視点からその成功要因を分析した。			
西野仁	Traditional Leisure Events and the Preservation of Cultural Identity After Disaster : The Bull Fighting Example in Japan		
Chun Cheon 2010 World Leisure Congress (2010年8月29日、於：Kangwon National University)			口頭発表（一般発表）

新潟県山古志村（現在長岡市）は 2004 年に発生した「中越地震」で壊滅的打撃を受け、隣接する長岡市に全村非難した。国指定重要無形民族文化財の 400 年以上続く「牛の角突き」も大きな被害を受け、一時はその存続が危ぶまれた。しかし、村民たちの熱意と努力で、この伝統文化は復興した。本研究はその復興の過程と新たに生じた状況を参加観察法を用いて明らかにした。			
大方優子 他	宗像大社における観光動向実態調査についての報告		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報	14 東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報	pp. 25-30	その他の文筆活動
2010 年 10 月に宗像大社で実施した観光動向調査について結果報告を行った。			
宮内順、岩田千鶴子	宗像への旅行者行動に関する調査		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報 14		pp. 17-23	その他の文筆活動
宗像観光協会と協力し、宗像グローバルアリーナで開催されたラグビー・ジャパン・トップリーグの乗場客を対象に、宗像を訪れる旅行者の実態調査を行った結果報告。			
北濱幹士	地球温暖化に翻弄される国「ツバル」		
むなかた環境フェスタ 2010			その他
むなかた環境フェスタ 2010 にて、ミニ講演会の講師を務めた。 大学の海洋調査研修船「望星丸」で、学生と共に「ツバル」へ二度渡航。現地での貴重映像を交えながらツバルの現状を紹介。			
北濱幹士	東海大学海外研修航海での「出会い」そして「再会」 一学校法人東海大学 第 39 回・41 回海外研修航海にて		
東海大学福岡短期大学 観光文化研究所 所報	14	pp. 49-53	その他
学校法人東海大学第 39 回・41 回海外研修航海において、南太平洋諸島における現地の方々との「出会い」そして「再会」についての手記である。			

3) その他の社会活動

- a. 専任教職員による官公庁等学外機関、本学園の広報機関等への公的な発表、専門知識や学識経験等を生かした活動

<研究業績表の見方>

発表者・活動者	テーマ・タイトル
	発表・活動の場所もしくは取組名称
	概要

<研究業績内容>

宮川幹平	新しい IT の潮流について
福岡県宗像市市民講座 (ルックルック講座)	
現在のインターネットにおける技術革新、情報洪水の現況を概観した上で、新しい IT の潮流を「クラウド」「モバイル」「ソーシャル」という三つの視点から、具体的な生活への影響やアプリケーション活用事例を示しながら解説した。	
真下仁	短期大学コンソーシアム九州の発足経緯と活動方針
私立短期大学情報教育協会 (平成 22 年度 短期大学情報教育改革 ICT 戦略会議)	
短期大学のみが集結し、結成した、日本で唯一のコンソーシアムの発足経緯と活動の概略から、各短大が取り組んでいる推進事業とそこから見えてくる短期大学の新たな戦略についての提言を行う。	
北濱幹士	英語に触れてみよう
福岡県宗像市市民講座 (ルックルック講座)	
「英語！」「外国語」と捉えず、日常的に使用している「日本語英語」から英語への親しみをもち、学びへと繋げる。 (今回は、小学校高学年での外国語必修化に関して河東西小学校教員への教員研修講座)	

- b. 専任教職員による研究所・官公庁・民間等の学外機関から委嘱を受け、専門知識学識経験等を生かした公的活動

氏名	委嘱機関名	委嘱内容
宮川 幹平	宗像市	宗像市情報化推進委員
八尋 剛規	宗像市立自由ヶ丘南小学校	情報教育に関する授業におけるパソコン操作指導支援
八尋 剛規	福岡市教育センター	情報教育研究室 研修会講師
八尋 剛規	福岡県立筑豊高等学校	社会人特別講師招聘事業
八尋 剛規	福岡市教育センター	情報教育研究室 研究発表会指導助言者
大方 優子	宗像市	宗像市渡船事業運営審議会委員
貝田 翔二	熊本県起業化支援センター	投資先選定審査会審査委員
北濱 幹士	夢灯籠まつり実行委員会	委員会への提言、出展への製作助言、協力
北濱 幹士	むなかた環境フェスタ 2010 実行委員会	「ツバル」に関する講演会
竹内 裕二	福岡県立筑豊高等学校	学校評議員

竹内 裕二	芦屋町役場	芦屋町総合振興計画審議会委員
竹内 裕二	嘉麻市	かまボランティア・市民活動センター運営委員
竹内 裕二	北九州市立年長者研修大学校	生涯学習講座講師
竹内 裕二	三萩野女子高等学校	社会人特別講師招聘授業
竹内 裕二	西九州大学短期大学部	平成22年度「地域人材養成フォーラム」登壇者
竹内 裕二	北方領土返還促進福岡県民協議会事務局	平成23年北方領土返還促進福岡県民集会での報告
竹内 裕二	福岡県立若松商業高等学校	社会人特別講師
竹内 裕二	北九州市立年長者研修大学校	年長者研修会講師
西野 仁	福岡県立ひびき高等学校	近未来ガイダンス講師
真下 仁	福岡女子短期大学	教員研修会講師
真下 仁	宗像市	宗像市男女共同参画推進懇話会委員
宮内 順	宗像市商工会	むなかた季良里認定事業委員会委員
宮内 順	宗像市	宗像市地域公共交通活性化協議会委員

c. 専任教員による学会等の運営に関する活動

氏名	学会名	委員名
赤井 ひさ子	アジア教育史学会	常任理事

d. 専任教員による外部の大学への非常勤出講

氏名	委嘱機関名	委嘱内容
大方 優子	九州産業大学	非常勤講師 2010.10.1～2011.3.31 秋2コマ
佐竹 則昭	九州共立大学	非常勤講師 2010.4.1～2010.9.30 春2コマ
佐竹 則昭	西南学院大学	非常勤講師 2010.4.1～2011.3.31 通年1コマ
宮内 順	サイバー大学	非常勤講師 2010.4.1～2011.3.31 インターネット 通年2コマ
宮川 幹平	西南学院大学	非常勤講師 2010.4.1～2011.3.31 通年2コマ
矢原 充敏	熊本県立技術短期大学	非常勤講師 2010.4.1～2011.3.31 通年1コマ
八尋 剛規	福岡教育大学	非常勤講師 2010.4.1～2010.3.31 通年2コマ・秋集中1
貝田 翔二	東海大学熊本校舎	非常勤講師 2010.4.1～2011.3.31 通年2コマ

(2) 海外活動

専任教員による海外での活動（講演・調査・研究等）

氏名	目的	期間	国名
伊原 奉賢	論文発表	5月28日～5月31日	韓国
大方 優子	論文発表	5月28日～5月31日	韓国
竹内 裕二	論文発表	5月28日～5月30日	韓国
伊原 奉賢	韓国短期留学引率	8月4日～8月17日	韓国
神山 高行	ハワイ短期留学引率	9月8日～9月21日	アメリカ
伊津 信之介	世界日本語教育大会	7月30日～8月2日	台湾
西野 仁	世界レジャー会議	8月28日～9月1日	韓国
西野 仁	イリノイ大学記念式典	10月20日～10月25日	アメリカ
竹内 裕二	東北亜細亜観光国際学会研究発表	8月21日～8月22日	韓国
矢原 充敏	国際会議	12月19日～12月23日	中国
張 アンナ	中国短期留学引率	2月28日～3月13日	中国
赤井 ひさ子	科研費による調査・研究	2月8日～3月12日	インド

(3) 科研費応募・採択状況

	応募件数	採択件数
研究代表者分	1 (新規 1)	1

1) 本学専任教員が研究代表者であるもの

研究課題 地域の初等教育を担う人材の育成：
インド・オスマナバード県を事例とする実証的研究
研究種別 基盤研究 (C)
研究代表者 赤井 ひさ子 准教授
補助金額 170 万円 (平成 21 : 60 万円、同 22 : 60 万円、同 23 : 50 万円)

2) 本学専任教員が研究分担者であるもの

2. 研究のための条件

個人研究費は、2002 年度より、研究の活性化および研究費の効率的運用のため、2 段階支給を採用している。まず、教員全員に一律 15 万円が配分される他に、特別研究費枠 (第 1 種から第 5 種) を設け、積極的に研究活動を行う教員には必要なより多くの研究費が配分される仕組みを作っている。なお、2006 年度から若手教員育成支援として学位 (博士) 審査経費についても対象とした。申請の条件は、本学内規の「特別研究費の取り扱いに関する規定」に明記されている。

(1) 研究費

各個人単価 15 万円

(2) 特別研究費

1) 特別研究費に関する規定

特別研究費の種別については、次の 5 種とする。

第 1 種：

国内外の学会・研究会での発表、論文投稿・掲載・別刷りなど研究成果の公表に必要な経費等の補助

第 2 種：

個人・グループ・学科の研究開発 (教育に関する研究開発も含む) に対する経費の補助

第 3 種：

私大教育研究高度化推進特別補助 (文部科学省執行) 及び特別補助 (事業団執行) への申請のための 2 分の一財源の補助 (確保)

第 4 種：

学位 (博士) 審査の申請、及び、審査上必要となる経費 (申請費用・旅費・博士論文別刷り代など) の補助

第 5 種：

その他、上記以外で特に必要と思われる研究開発 (教育に関する研究開発も含む) の補助

特別研究費の取り扱いについては以下の通りとする。

- 特別研究費の申請は、随時 F D 委員会で受け付けする。申請期限は、12 月 31 日までとする。
- 特別研究費申請の採択については、F D 委員会の予備審査を経て、企画調整会議で審査する。
- 第 1 種のうち、海外で開催される学会への旅費は総研 A 計画に準じて上限を 15 万円とする (年度につき教員一人あたり最大 2 回まで)。
- 第 1 種のうち、国内で開催される学会への旅費は原則として上限 5 万円とする (年度につき教員一人あたり最大 4 回まで)。
- 第 2 種は、個人・グループ・学科共、当面申請額について精査し、補助額を決定する。
- 申請が採択された場合、特別研究費による研究活動について、当該年度中に報告書を提出しなければならない。なお、報告書の書式は任意とし、提出先は F D 委員会とする。

※補足

- 同一行程における複数学会発表の第 1 種申請の旅費支給の上限は 50,000 円 (国内で開催される学会の場合)

- 第1種申請の学会発表に伴う補助は、旅費（宿泊費は除く）及び学会参加費とする。

2) 2010年度特別研究費実績

種別	申請者	発表学会・研究会名	研究（開発）課題名	決定額
1種	竹内 裕二	第21回韓国日本近代学会国際学術大会	住民主体による利便性向上に向けた地域資源開発に関する実践的研究	27,100円
1種	大方 優子	第21回韓国日本近代学会国際学術大会	日本人旅行者の購買行動に関する研究	27,100円
1種	伊原 奉賢	第21回韓国日本近代学会国際学術大会	「e-Learning 韓国語」web教材開発と実践	27,100円
2種	矢原 充敏	学科内研究	モバイル機器を活用した新たな情報教育の確立に関する研究	365,996円
1種	伊津 信之介	2010世界日本語教育大会	eImmによる「日本語で理解する今の日本」日本語教材	55,965円
1種	西野 仁	ChunCheon 2010 World Leisure Congress	災害後の伝統的レジャーイベントと文化的アイデンティティの維持：日本の「牛の角突き」を事例として Traditional Leisure Events and the Preservation of Cultural Identity After Disaster: The Bull Fighting Example in Japan	96,230円
1種	竹内 裕二	東北亜細亜観光国際学会	A report on an experimental 'action research' for community development of sightseeing areas by citizen participation: Case study for the isolated island of Aishima, city of Kitakyushu	26,185円
1種	竹内 裕二	東北亜細亜観光国際学会	住民主体による観光地化に向けた地域資源開発に関する実践的研究 - 北九州市小倉北区藍島を事例として -	11,850円
1種	チョウ アンナ	第15回東海大学授業研究会	授業改善の個人的取り組みと組織的取り組み	38,380円
1種	矢原 充敏	The Fifth International Conference on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC2010)	A Dividing Ratio Changeable Digital PLL Using Multi-Phase Clock VCO Unaffected by Input Frequency Change	121,075円

2種	宮川 幹平	学科内研究	Android タブレットを活用した新しい授業展開に関する研究	141,750円
----	-------	-------	---------------------------------	----------

(3) 研究に係る経費

2010年度決算 研究経費

項目	情報処理工学科	国際文化学科	合計
用品費	532,346	70,600	602,946
消耗品費	799,819	522,168	1,321,987
図書資料費	244,494	240,055	484,549
旅費交通費	288,506	882,954	1,171,460
印刷製本費	0	0	0
通信運搬費	9,726	23,670	33,396
修繕費	0	0	0
賃借費	0	0	0
諸会費	196,850	146,165	343,015
委託費	0	0	0
雑費	0	17,375	17,375
合計	2,071,741	1,902,987	3,974,728